

# ぼくが生きてる、 ふたつの世界

伝えられない想いが  
あふれます。

監督:呉美保 主演:吉沢亮 脚本:港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 鳥丸せつこ でんでん

原扶貴子 山本浩司 河合祐三 長井恵里

原作:五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画・プロデュース:山国秀幸

製作:「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ワンダーラボトリック/博覧会OYミーティング&ピクチャーズ/ギャガ/関西日本コミュニケーションズ/アイ・ビー・アイ/アイ・エス/河北新報社/東日本放送/シネマ&パブリック)

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給:ギャガ GAGA★ gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/

母に背を向け、故郷を離れたぼく——。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

GAGA★  
GENDA GROUP



親子の物語が、そしてひとりのコーダの心の軌跡が、点描のように紡がれていく——。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、“きこえる世界”と“きこえない世界”を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。

\*コーダ：きこえない、またはきこえにくい親を持つ聴者の子供



## 母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、“大”と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

としては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持って余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが……。



令和7年度 蔵王町ふるさと文化会館事業 町制施行 70 周年記念事業「映画上映会」  
上映作品：ぼくが生きてる、ふたつの世界

令和8年 1 月 25 日 ( 日 ) 午後1時30分開場 午後2時上映開始  
(午後3時35分終了予定)

【会場】 蔵王町ふるさと文化会館 (ございんホール) 多目的ホール

全席自由席

【前売券】 大人 (高校生以上) 1,200円 【当日券】 大人 (高校生以上) 1,500円 小・中学生800円

【前売券取扱場所】 蔵王町ふるさと文化会館 (刈田郡蔵王町大字円田字西浦5番地)

受付時間：月曜日を除く平日及び土・日・祝日 午前8時30分から午後5時15分まで

【前売券発売日】 令和7年12月10日 (水) 午前10時から発売開始

【主催】 蔵王町 蔵王町教育委員会 【後援】 社会福祉法人蔵王町社会福祉協議会

【お問合せ】 蔵王町ふるさと文化会館 (電話 0224-33-2018 FAX 0224-33-2019 E-mail gozain@town.zao.miyagi.jp)



宮城県蔵王町観光PRキャラクター  
ぞうすま